

# タイパ追求と加速する社会に関する研究

現代社会では、便利なもので豊かになる一方、時間に追われ忙しい毎日を過ごすという矛盾が生じているように思われる。そうした中、近年若い世代を中心にみられる「タイパ」を求める消費行動が注目されている。こうした現象を「タイパ」と「加速する社会」というキーワードからその広がり、背景を分析し、豊かな時間の使い方とは何かを考察することを本研究の目的とした。

ローザは近代社会を絶え間ない成長と加速によって構造を維持しており、加速が続くことで「超高速静止」の状態に陥るとした。本研究では現在のタイパ追求はこの社会構造における生活テンポの加速への適応戦略であり、人々は情報過多や体験の数に人生の価値を見出す風潮から時間窮迫に陥っていると捉え直した。

Z世代から始まったとされるタイパ追求の意識はコロナ禍を経て現在ではZ世代に限らず広がっていることが分かった。そうしたタイパ追求の背景には2つの要因があげられる。一つはSNSの普及やジョブ型雇用への注目といった外部要因である。もう一つは極度な失敗回避、情報共有への強迫観念といった内部要因である。特にZ世代では、早期化するキャリア教育やSNS中心の交友関係、「時間＝希少な資源である」という考えがみられ、タイパ追求が生存戦略となっていると考えられる。

幸福度の高い北欧諸国との比較では、デジタル化による加速にも対応しながらも「ヒューゲ」のように自分自身を満たす時間を最優先する「真のタイパ」を実践していることが分かった。日本においても、タイパを目的とするのではなくタイパを大切なことのための一つの手段として再定義することが豊かな時間の使い方につながると考える。

現代社会は加速する社会となっていると考えられる。そうした中見られたタイパ追求は社会の加速に対する個人の適応戦略であったとも言える。今後は、北欧の人々の時間との付き合い方を参考に、本当の意味でのタイパを実践していくことが必要であると考え。自分にとっての大切なことを優先するために、タイパを主体的に使いこなしていくことが求められる。